

回覧

竹  
耕  
藝

# 勝城蒼鳳

那須野が原に生きて

Bamboo art Soho Katsushiro : Lived in Nasunogahara

益子陶芸美術館

Mashiko Museum of Ceramic Art

栃木県芳賀郡益子町益子3021

TEL: 02885-7217555

[www.mashiko-museum.jp](http://www.mashiko-museum.jp)

(平河村の文島漆花籃「駒止の漣」(部分) 2011年)





《盛籠》1968年



《千塚曲線模写花籃「かげろう」》2009年 大田原市



《藤平仲藤漆花籃「薫染」》2011年



《巨籠「菊」》1985年 那須野が原博物館



《板曲竹白雨編花籃「竹林」》1991年 那須野が原博物館



《狂鳥父色千筋花籃「瀧」》1995年 那須野が原博物館



《茨千鳥編盛籠「溪流」》1983年 国立工芸館



《傾曲竹雨編花籃「暖炉」》2016年 国立工芸館



《亀甲形拭津盛籠》 神楽美術館

## 竹耕藝 勝城蒼鳳 — 那須野が原に生きて —

Bamboo art Soho Katsushiro : Lived in Nasunogahara

2024年 4月21日[日] → 6月16日[日] 開館時間 9時30分 → 17時 (入館は閉館30分前まで)

■休館日：月曜日(祝休日の場合は翌日、ただし春の陶器市期間中の4月30日(火)は開館)

■入館料：大人600円(550円)・小中学生300円(250円) ※ ( )内は20名以上の団体、65歳以上は300円(要証明)

■主催：益子町文化のまちづくり実行委員会 益子陶芸美術館 ■後援：下野新聞社 とちぎテレビ 栃木放送 エフエム栃木 真岡新聞社 NHK宇都宮放送局

森羅万象の美を竹工芸へ映し出す詩情豊かな作風で知られ、昨年1月に惜しまれながら逝去した栃木県大田原市の竹工芸家、勝城蒼鳳の個展を開催します。勝城は1934年栃木県高林村箕輪(現・那須塩原市)に生まれました。15歳から竹細工の技法を学び、1965年から八木澤啓造に師事します。2年間の修行のち八木澤から「蒼鳳」の名を授けられると、1968年より竹細工から竹工芸の道を志すようになります。さらに八木澤が竹工芸の指導でフィリピンに渡っていた5年間は、斎藤文石に指導を受けています。第30回日本伝統工芸展で都知事賞、第44回同展でNHK会長賞を受賞するなど数々の受賞を重ね、2005年には重要無形文化財「竹工芸」保持者に認定されました。

勝城は自らが目にした自然の景色を自由自在に竹で表現します。竹は絵画のような具象表現はできませんが、ひとたび勝城作品に直面すれば、まるで眼前にその情景が広がっていくかのような感覚を得ることでしょう。半農半工を生継続け、栃木の大地で育まれた竹を用いてその自然を表現し、勝城が耕した作品の数々をお楽しみください。

同時開催 スポットライト「出和絵理 新たな磁土の表現」

会場：当館2階展示室 要企画展子ケット

### 次回展のご案内

「英国ロンドン派」  
6月30日(日)～9月23日(月・振休)

※今後の状況により展覧会予定に変更が主になる場合がございます。  
最新情報は当館ウェブサイト・Facebook・X・Instagram等でご確認ください。

### Access

## 益子陶芸美術館

Mashiko Museum of Ceramic Art

〒321-4217 栃木県芳賀郡益子町益子3021

TEL.0285-72-7555

www.mashiko-museum.jp

アクセス：【バス】東武宇都宮駅(西口1番バス乗り場)、JR宇都宮駅(西口14番バス乗り場)から関東バス益子行、または秋葉原駅より茨城交通高梁バス「関東やまのライナー」笠間・益子行、陶芸メッセ入口下車徒歩約2分。【鉄道】JR小山駅から水戸線「下館」駅下車、下館駅から真岡線「益子」駅下車徒歩約25分。【自動車】常磐自動車道友部JCT経由、北関東自動車道「桜川筑西」ICから約20分。東北自動車道栃木都賀JCT経由、北関東自動車道「真岡」ICから約25分。 最新状況は各交通機関にご確認ください。

